



東京の会通信

No.268

2016年9月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

東京の会第27回定期総会を開催

6月25日(土)に、東京の会の第27回定期総会が新宿の全労済東京会館で開催されました。総会では、2015年度活動報告、2015年度会計報告、2016年度活動方針、新役員が承認されました。また、会の名称変更と会則の改定が承認され、「骨髄バンクを支援する東京の会」として活動を継続することになりました。総会議案書の概要を掲載しましたので、ご参照下さい。なお、会の名称変更については前号で経過を含めて報告済みですので、議案の掲載は割愛します。

総会後には、日赤医療センターの塚田信弘先生による「医療現場におけるドナー選択」をテーマとした記念講演と、大谷貴子さんの司会で、塚田先生、末梢血幹細胞提供経験者の樋口拓己さんによるシンポジウムが行われました。このうち、記念講演の内容をご紹介します。

今年の定期総会記念講演は「医療現場でのドナー選択の実際」と題し、日本赤十字医療センター血液内科副部長 塚田信弘先生にお願いしました。先生はパワーポイントの資料で骨髄バンクが抱える問題点を指摘され、現場で医師がどのようにドナー選択を行うのか、その実際についてお話してくださいました。聴衆には会員だけでなく、一般の方々も参加し、熱心に聴いてくださいました。講演内容の概要は以下のとおりです。

(1)骨髄バンクの財政難はコーディネート期間の短縮で解決されるのか

骨髄バンクを介した骨髄移植が減少したことが、財政難を招いたとされています。現在の骨髄バンクのコーディネート期間の中央値は147日で、担当医として移植の適応と判断し、治療計画の中で移植を考えた場合長すぎるのです。90～100日位に短縮されないと、骨髄バンクを介した骨髄移植の増加は望めないでしょう。



(2)現場の医師はどのようにドナーの選択をしているのか

骨髄バンクではドナー側の日程が最優先されますが、現場では患者側の日程を最優先します。

(3)同種移植の新しい客観的評価について

従来、移植成績の客観的評価法として、全生存率、無病生存率が使われてきました。近年、GVHD-free, relapse-free survival (GRFS) という評価法が報告されています。GVHDもなく、再発しないで生存している患者さんの割合がどうかという評価法です。この評価法では、血縁者間骨髄移植が最も成績がよく、骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植、さい帯血移植が次に良く、血縁者間末梢血移植は成績が悪かったとのことでした。

(4)コーディネート期間短縮に向けて

現在の骨髄バンクの制度では最初にドナー候補者として5人のドナー登録者が選定され、コーディネートが開始されますが、確認検査まで進むのは約20%とのことでした。私見ですが、提供の意思がないドナー登録者の登録を解除して、確認検査に進む確率を高める方法も一つの解決法でしょう。

一方ドナー選定から採取までの日数が70日以上かかっており、その原因の一つとして地域によっては必要採取数と採取可能医療機関の能力のアンバランスがあるようです。移植を必要とする患者さんに、最短の日数で必要な時期に造血幹細胞が提供されるよう、骨

髄バンクや拠点病院が連携して、コーディネート期間の短縮に尽力して下さることに期待しています。

(5) アクティブドナーの増加を目指して

現在の骨髓バンクドナー登録者の分布をみると40歳代前半にピークがあり、一方20歳代の登録者が少ないことが危惧されます。登録から一定期間を経過したドナーの健康状態や、消息が確認できないドナー、提供の意思の低いドナーを明確にし、一方若年の提供意思の高いドナーを増やすことでコーディネート期間の短縮も進むことが期待できるのではないのでしょうか。

(6) 総括

血縁者間造血幹細胞移植やさい帯血移植で血液難病



を克服した患者さんもおられますが、骨髓バンクがなければ助からなかった患者さんもたくさんおられます。今回の財政難は骨髓バンクにとって大きな試練かもしれませんが、これまでも多くの患者さんを助けてきたことを踏まえ、これからも血液難病患者さん救命のための重要な役割を担っていることを励みに乗り越えて欲しいと願っています。

最後に先生からボランティアへのメッセージで「皆さんもボランティアだということに甘えず、いろいろなことを勉強して行って欲しい」とのお言葉をいただきました。ボランティア活動の中で見失いがちな心構えに警鐘を鳴らしていただき、有難うございました。

(新田恭平)

2015年度 東京の会 活動報告

2015.4.1~2016.3.31

1 総会・定例会・おりおり(会報発送作業)

- (1) 定期総会 第26回定期総会6/27開催 (於: 全労済東京会館会議室)
- (2) 定例会 毎月第4土曜日12回開催 (於: 全労済東京会館会議室)
- (3) おりおり 隔月第1土曜日6回開催 (奇数月) (於: 品川運輸会議室)
(東京の会会報・骨髓バンクニュース・さい帯血バンクニュース等、発送作業)

2 ドナー登録会

- (1) 日赤献血ルームでの献血・骨髓バンクドナー登録推進活動
 - 6/20 (土) 新宿東口献血ルーム ドナー登録者20名
 - 7/18 (土) 新宿東口献血ルーム ドナー登録者25名
 - 9/12 (土) 有楽町献血ルーム ドナー登録者21名
 - 10/17 (土) 有楽町献血ルーム ドナー登録者10名
 - 12/19 (土) 新宿東口献血ルーム ドナー登録者20名
 - 2/13 (土) 有楽町献血ルーム ドナー登録者24名
- 2015年度実績 ドナー登録者 120名
※2015年度目標 120名としていたため、目標達成。

3 患者支援活動

- (1) 医療その他セミナー
 - 6/27 第26回定期総会後の講演会で、患者さん含むボランティアのための講演会
「HLAは、プロメテウスかエピメテウスか？」
HLA研究所所長 佐治 博夫 先生
「ハンドベル演奏会」賛美歌・翼をください、他
しろさとベルフレンズ

4 普及広報活動

- (1) 会報「東京の会通信」発行
 - 隔月1日発行 (奇数月) / 第1土曜日発送6回発行。
 - 2016年3月号まで264号発行
 - 会報と共に、骨髓バンクニュース、さい帯血バンクニュース、その他適宜、発送
- (2) セミナー・イベント開催および参加
 - 4/24~29・5/1~6 全国協議会への協力「肉フェス」でのドナー登録説明会の参加応援。12日間でドナー説明17名、寄付金258,256円。子供向けの「おもちゃ釣り」でブースへの人集めをして骨髓バンクの普及啓発とドナー説明をおこなった。
 - 5/30~6/1 全国協議会25周年記念「日本縦断キャ

- ラバン」沖縄から北海道間運行のゆいまー号が都内巡行。江東区木場公園で東京の会主催「木場祭り」盛大に開催。
- 東京都特殊疾病課を表敬訪問イベント趣旨を都知事宛に提出。厚生労働省移植医療推進対策室長との懇談。スカイツリー献血ルーム・日本本社・骨髓バンク・日赤東京都血液センターを表敬訪問しアピール文を手渡しする。各所で多くの方々に出迎えられ大歓迎を受ける。キャラバンカーは全国協議会25周年記念大会会場で展示。
- 5/30 全国協議会総会。財政立て直しと財務基盤の安定化に向けた決意表明。
- 5/31 全国協議会「25周年記念大会」に参加。早稲田大学国際会議場で映像作品コンペの表彰式。国際シンポジウムではオーストラリアと韓国から日本のドナーから移植をした患者さんを招待し対談。「造血細胞移植・25年の歩み」シンポジウムでは造血幹細胞移植治療の始まりから現在までを5年刻みにスライドと体験談で振り返った。
- 9/19 新宿熊野神社祭礼・西口陸イベント会場で骨髓バンク普及啓発活動。新宿陸1万円の寄付をいただき、新宿献血ルームでドナー登録できることを案内するとともに募金活動。街頭募金で関係者含め4万円以上の募金が集まる。
- 9/28 品川宿場祭り 東京マリーナーロータリクラブに協力 普及啓発活動・バザー出店。
長野松川で仕入れた果物や新鮮野菜を販売。すでに常連となるお客さんが多数訪れ早々に完売。江戸風俗に仮装した人々のパレードにもものほりを持って参加しティッシュ配布骨髓バンクをPR。品川寺では毎回厄除けの「火渡り」が開催された。
- 9/23～24 東京の会「山梨ぶどう狩りバーベキュー・温泉ツアー」東京の会有志による山梨県観光ツアー。ワイン工場・ハーブ園・露天風呂付き温泉、民宿でのバーベキューと牧丘の巨峰取り放題。八ヶ岳倶楽部・天女山・吐竜の滝・三分一湧水見学。
- 11/23 「バラのかおりのコンサート」23回ピアノ三重奏コンサート（発明会館ホール）
例年通りバラで会場を埋め尽くす。バラの飾り付けや手作りのバラをあしらったグッズもたくさん用意。三戸素子さん、小澤洋介さん、高田匡隆さんのトリオが素晴らしい演奏。移植を受けた元患者岩崎さんと2回提供したドナー大橋さんの体験談も素晴らしく、過去最高の211名のお客様が会場は満杯だった。
- 11/7～8 「スノーバンクイベント2015」（代々木公園）に参加。荒井daze善正さん（元患者・プロスノーボーダー）が発起人のスノーボードイベント。今年代々木公園に2日間献血バスを誘致。7日ドナー登録31名（献血50名）8日ドナー登録33名

（献血50名以上）2日間で64名がドナー登録。スノーボーダーやボランティアの若者達が多く登録。代々木公園に雪を降らせゲレンデを作りスノボやソリを楽しむイベントも大成功。東京の会ほか首都圏のボランティアも参加した。

- 11～12月 松川アップルズのご協力で、市田柿（生産者竹村美佐子さん）のチャリティー 通信販売による支援活動を実施
- 1/2・3 箱根駅伝沿道にて普及啓発（田町・箱根宮ノ下）および募金活動（箱根宮ノ下）
東京の会からのべ20名参加。首都圏のボランティア合計52名とブルデンシャル生命社員316名が沿道でのほりを持って応援。TVを通して患者さんを勇気付ける。
- 2/22 ブルデンシャル生命ドナー登録会。箱根駅伝沿道応援ボランティアに参加した人数×1万円を全国協議会「佐藤きちこ患者支援基金」に寄付するため、本社で贈呈式。大谷貴子さんが寄付を受け取りドナーの大橋さんと患者家族松阪さんが体験談を語る式典後に本社内社員に呼びかけドナー登録説明会実施。東京の会説明員5名参加。
- 3/6 東京新都心ライオンズクラブ他東日本大震災復興支援チャリティー「私たちは忘れない3・11」新宿中央公園でテントを提供いただきチラシとティッシュ配布。今年は献血バス誘致してドナー登録受付も実施。東京の会9名イベント参加。説明員の役をするもドナー登録7名（献血25名）と低調に終わる。産地直送の野菜や日本酒を購入し、宮城・石巻の復興に協力！
- 3/19 全国協議会関東ブロックセミナー（全労済東京会館）関東近県ボランティア団体が参加。全国協議会の財政難の厳しさを説明受けると共に賛助会員・サポート会員の要請と募金箱設置のお願い。法改正やドナー支援制度。東京の会5名（全体17名）参加。

5 関係機関への要請・請願・陳情活動

◆「骨髓移植ドナー支援事業」について

2014年9月26日、東京都議会に対し、「骨髓移植ドナーに対する制度創設に関する請願」を提出しました。その後、11月27日の厚生委員会では全会一致で趣旨採択され、12月25日の都議会本会議で採択されました。これにより2015年4月より東京都全区市町村で「骨髓移植ドナー支援事業」に対して東京都が補助する環境が成立しました。

「骨髓移植ドナー支援事業」では、ドナーが骨髓提供する場合、通院や入院など1日に付きドナーに2万円、ドナーが従事する事業所等に1万円が支給されます。支給額の半額は東京都が助成する仕組みです。請願時点では、稲城市のみが制度導入していて実施の対象となりました。

その後、東京の会で把握している実施自治体は以下のとおりです。

すでに2012年より実施中	稲城市
2016年1月より実施	豊島区
2016年4月より実施	渋谷区、世田谷区、品川区、町田市、三鷹市、武蔵野市
2016年6月より実施	杉並区、小金井市

聞き取り調査では、上記の他に、今年度制度化は見送ったが、他の自治体の動向を見ているとの回答がいくつかの自治体でありました。また、独自事業として継続している自治体が一つ、4月から独自の新規事業として開始したのが1自治体あり、この2自治体については、東京都の医療保健政策包括補助事業と連動していないことがわかりました。制度化した自治体の予算については、ほとんどが1～2名分程度です。

未実施の自治体では、この制度に対する態度や対応に微妙な違いが感じられ、できれば、東京都から自治体に対する何らかの指導や関与が望まれます。とりわけ、町や村のような人口の少ない自治体においては、交通網が不十分であったり、地元に登録する場所や血液疾患を治療できる病院がなかったり、人口の半数以上が50歳以上であったり、自治体だけの措置では、制度化そのものが不可能ではないかと感じられる自治体

もありました。

聞き取りを行って、実施状況はほぼ把握できたと思っておりますが、現在の実施のスピードでは遅すぎるのではないかと感じてしまいます。また、制度をつくることができない自治体も出るのではないかと予想されます。ドナー支援制度は、2016年度がスタートした段階では10自治体で実施が決まっているとはいえ、このペースで進むとすると、全自治体で制定するには、あと5年もかかってしまい、その間はドナーとなって骨髄提供を行っても、支援のない自治体が比率で多数を占めかねません。

また、どうしても制度ができない自治体のことも考えると、この制度については、東京都が実施主体となり、全都民に対して、住んでいる地域によって差がないようにすべきであると答えた自治体関係者もおられました。

東京の会としては、2017年度中には全自治体で制度が実現されることを目指して順次取り組みます。各自治体や議会等への働きかけとともに、東京都に対しても、もっと積極的に推進するよう求めていきたいと思っております。

※東京都の自治体数 23区、26市、5町、8村
計62自治体

以上

2015年度 決算報告

【収入の部】		【支出の部】		【資産増減明細】		
会費	222,000	収益事業費	402,598	資産内容	繰越資産期末	前年度繰越期首
寄付	786,002	物品仕入費	63,264	現金	0	0
物品売上	90,182	普及広報費	560,720	郵便振替口座	0	10,000
事業収入	979,989	通信発送費	359,033	郵便貯金	2,320,774	2,587,515
受取利息	518	業務諸経費	123,144	普通預金	132,811	267,627
助成金	20,000	交通費	171,630	貯蔵品	184,125	186,330
		全国協議会会費	120,000	敷金	45,000	45,000
小 計	2,098,691	貸借料	632,250	前受会費	-21,000	-21,000
		支払手数料	8,856	差引		
合 計	2,098,691	損害保険料	30,100	当期剰余金		
		光熱費	10,858			
		寄付金	30,000	合 計	2,661,710	3,075,472
		小 計	2,512,453			
		当期剰余金	-413,762			
		合 計	2,098,691			
<収支差額> 収入－支出＝-413,762					<資産増減> 期末－期首＝-413,762	

2016年度東京の会役員

《代 表》 三瓶 和義	《会 計》 大塚 礼子	《業務監査》 及川 耕造
《代表代理》 若木 換	森永 富美子	
《事務局長》 二見 茂男	《会計監査》 大塚 和博	《顧 問》 野村 正満
	竹村 政明	新田 恭平

2016年度活動方針

〈1〉骨髄バンクの普及啓発活動

骨髄バンクへのドナー登録や骨髄提供に対する市民や社会の理解を深めるため、イベントの開催や地域における普及啓発活動、会報やインターネットを活用した情報発信をおこないます。特に若年層への普及啓発を強化します。

〈2〉ドナー登録推進

骨髄バンクのドナー登録者数は46万人を超えましたが、移植に至る患者さんは約6割にとどまっています。日赤の協力の下、都内献血ルームでドナー登録を呼び掛ける活動を継続します。

〈3〉より機能する移植医療を目指して

- (1)都内区市町村に対し、昨年4月から開始された東京都による助成制度を活用したドナー給付制度の導入を求める取り組みを行います。
- (2)日本骨髄バンクに対し患者負担金の値上げ（実施延期中）を撤回するよう求めるとともに、国に対し補助金の増額等による骨髄バンクの財政安定化を要望します。
- (3)骨髄バンクのドナーコーディネーター期間の大幅な短縮、骨髄・さい帯血バンクの一体的運営や窓口の一

本化、日赤による骨髄ドナーリクルート、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の改正など、さらなる患者救済につながる政策の実現を求めます。

〈4〉患者・患者家族への支援と情報提供

さまざまな状況下の患者・患者家族の皆さんが、難病と向き合い闘病ができるよう、情報提供や支援活動、患者負担金の軽減にむけた活動を積極的におこないます。また患者会等と連携をはかり、患者さんの現状を理解するとともに、共同の取り組みをおこないます。

〈5〉会報の発行

会報「東京の会通信」を発行し、患者・ドナーのメッセージや活動報告を伝えながら、造血幹細胞移植医療の様々な課題に対する提言をおこないます。

〈6〉活動の活性化と他組織との連携、財政基盤の強化

各ボランティアの活動を支援・協力し、新たな視点を持つ新規会員の募集をおこないます。また、他の組織との交流や活動の協力関係を強化し、活動を活性化します。財政基盤の立て直しのため、経費の見直し、会員増や寄付の確保につとめます。

2016年度・東京の会宣言

私たち「公的骨髄バンクを支援する東京の会」は、2016年度の活動を開始するにあたり、以下のとおり宣言します。

- 1.患者救済とドナーの安全を活動理念とし、造血幹細胞移植医療を必要とするすべての患者さんが、希望する治療を受けられるよう、ドナー登録を推進し、環境整備や制度確立を目指して活動します。
- 2.広く社会に対し、血液難病や造血幹細胞移植医療

- に対する理解を深める活動をおこないます。特に、若年層に向けて発信し、次世代につながる活動を目指します。
- 3.患者擁護の立場に立ち、どんな困難にも臆せず、明るく楽しい活動を展開していきます。

東京の会 「9月、10月定例会」 のお知らせ

10月1日（土）、10月22日（土）午後5時30分より
9月の定例会は会場の都合で10月1日に変更になりました

会場：全労済東京会館3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側
※11月定例会予定・11月19日（土）午後5時30分より

11月会報発送 「おりおり」のお知らせ

- 10月の「おりおり」はありません！
- 会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。
- 11月5日（土）13時00分より
- ※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
- 場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）
- JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
- ※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
- ※2017年1月「おりおり」予定・1月7日（土）13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

毛塚眞次さんを偲ぶ



前号でもお伝えした通り、東京の会会員で、品川運輸株式会社相談役の毛塚眞次さんが、6月14日に65歳でご逝去されました。東京マリーンロータリークラブ（現東京港南マリーンロータリークラブ）を通じて、東京の会に多大な貢献をいただいた毛塚さんを偲び、感謝と哀悼の意を表します。東京の会のお二人から追悼文を寄せていただきました。

野村正満さん（東京の会顧問・全国協議会理事長）

初めて毛塚眞次さんにお会いしたのは25年ほど前だったと記憶しています。当時、東京マリーンロータリークラブ（初代会長平野修助東邦大学長）が創立されることになり、毛塚さんは初代幹事として準備作業の全てを取り仕切っておいででした。

年配者の多いロータリアンの中で、颯爽とした青年実業家でした。脂ぎった若者ではなく、当時から物腰穏やかな紳士の風情を漂わせていましたが、どこか憔悴したような印象を受けました。お話をうかがっていると、奥さまが白血病と診断されたこと、治療の道筋が全く見えていない状況でした。

マリーンRCが設立当初に掲げた活動が「骨髄バンク支援」で、以後は東京の会と多くの場で行動をともにしてきました。その過程の中で、奥さまは血液内科の専門医がいる病院へ転院し、骨髄バンクを介した骨髄移植へと順調に進み、社会復帰されました。

その一方で、ご自身が難しい病気と闘うことになり、あまりにも若すぎる最期を迎えられました。これまでのおつきあいを振り返ると、悲しさがあふれてやみません。

新田恭平さん（東京の会顧問）

東京マリーンロータリークラブ（現東京港南マリーンロータリークラブ）が発足して半年経った1993年4月に国際ロータリークラブ加盟が認められ、認証伝達式が4月21日にホテルパシフィックで行われました。その席上、ロータリークラブさんから骨髄バンクボランティア活動への支援金が全国協議会に贈呈され、その一部が私達東京の会に分与されました。当時の詳しい事情は分かりませんが、骨髄バンクボランティア活

動への支援を毛塚さんが提案され、ロータリークラブが承認して実現していただいたものと確信しています。

その後も毛塚さんの発案で、青物横丁商店街が毎年5月に開催する「あおもの祭り」や、旧東海道沿いで9月末に開催される「しながわ宿場まつり」へロータリークラブがバザー出店し、収益金から東京の会に寄付をいただきました。「宿場まつり」のバザー出店は昨年まで継続されており、毛塚さんのご遺志を継いで今年も行われる予定です。

1996年度には毛塚さんは、東京の会の業務監事に就任され、会の活動に対してご意見をいただくとともに、会報送付作業「おりおり」の場所として、社長をしておられた品川運輸（株）（品川区東大井2丁目）本社ビルの4階会議室をご提供していただくことになり、現在まで続いています。

さらに2002年には東京マリーンロータリークラブが発立10周年を迎え、記念行事の一つとして紙折り機をご寄贈いただきました。それまで会報やバンクニュースなどを手折りしていましたが、機械の導入により効率上がり、時間が短縮されました。これも毛塚さんのお蔭です。

東京の会が行った都議会請願をきっかけとして、2015年に導入された東京都における骨髄バンクドナー支援制度は、都内自治体が制度を導入することが条件となっており、東京の会は2015年から特別区・市町村への制度導入促進活動を展開し、現在までに合わせて10自治体で支援制度が導入されました。その中に品川区が含まれていますが、これは毛塚さんが品川区議会に請願していただいた結果です。本当に有り難うございました。心からご冥福を祈ります。

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー （平成28年7月末日現在）

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	463,465	58,130	48,616
6-7月登録分	6,074	634	553
6-7月抹消数	3,111	326	—
実質登録増	2,963	308	—

患者とドナー登録・適合状況7月末日現在

ドナー登録受付者数（累計）	675,042人
ドナー登録抹消者数（累計）	211,577人
HLA適合報告ドナー数（累計）	263,644人
実質登録患者実数（現在）	3,226人（国内1,421人）
HLA適合患者数（累計）	38,851人（患者累計数の79.9%）
非血縁移植実施数	19,747例（6-7月実施264例）

「バラのかおりのコンサート」

バラグッズ販売もお楽しみに！

いよいよ2ヶ月後に迫りました東京の会主催の「バラのかおりのコンサート」。ピアノ三重奏の美しい調べはもちろんですが、毎回ロビーで販売される、バラの花束や手作りのバラグッズを楽しみにして下さる方も多いと思います。今年も新たなラインナップを加え、準備に余年がありません。新グッズの紹介と共にご案内いたしますので、ご家族やご友人とお誘い合わせの上、是非お出で下さいますようお願い申し上げます。

日時：2016年11月13日（日）14：00開演（開場13:30）

場所：発明会館ホール

（東京メトロ「虎ノ門」駅 徒歩5分）

出演：三戸素子（ヴァイオリン）、小澤洋介（チェロ）、高田匡隆（ピアノ）

料金：前売り3,000円 当日券3,500円 全席自由

※その他詳細は同封のチラシをご覧ください。



●今年注目のバラグッズ 男性にもオススメ！

今年新たに、バラ柄の布で縫った文庫本用ブックカバーと、バラ模様をデコパージュしたポーチが登場です。どちらにも



文庫本用ブックカバーとポーチ

手織りのレースをあしらったものがあります。機械で大量生産されたレースとは違って、上品な華やかさが自慢の手織レースはあまり売りに出ることのないものです。

また、例年バラグッズはなかなか男性の方に手に取っていただけるような商品がありませんでしたが、今年は男性にもお使いいただけるブックカバーをご用意しました。バラ柄は裏地に使い、表は着物地にネクタイ布をパッチワークした渋めの商品です。

他にも「バラのかおりのコンサート」でしか入手できないオリジナルの商品をいろいろご用意してお待ちしています。毎年大好評の中澤ナーセリーさんのバラの花束や、ひまわり作業所の手作りクッキーも販売します。

素晴らしいピアノ三重奏の演奏と共に、バラグッズのお買い物も楽しみにして、11月13日（日）は是非、発明会館へお越しください。

「しながわ宿場まつり」は、9月28日(日)開催！

東京港南マリンロータリークラブでは、北品川から青物横丁の旧東海道沿いで催される「しながわ宿場まつり」で、骨髄バンク支援チャリティーバザーをテントで出店します。品川寺のすぐ正面、お祭りパレードの最終地点で、新鮮な野菜やくだもの、バザーの品々を売り捌き、朝早くからお客が並ぶ、知る人ぞ知る名物出店となっています。

今年は9月28日（日）、売り子のボランティア大募

集中！9時に品川寺に集合ください！なお旧東海道パレードや品川寺の「火渡り」も体験できちゃいます！ぜひ多くの方々の参加をお待ちしています！



骨髄バンクニュースの発行方法が変わりました

日本骨髄バンクでは、財政難の状況から、例年2回発行している「骨髄バンクニュース」を、1回は印刷せずに、骨髄バンクのホームページからWEBで読んでもらう方法に改めました。今回東京の会通信に同封した「骨髄バンクニュース」は、WEBで見られる最初と最後の紙面を印刷したものです。他の記事については、骨髄バンクのホームページから参照ください。

編集者 雑記



▼先日、電車の車内で若者たちがこんな会話をしていました。「1回分の献血の売値は18,000円もするんだって。クッキーやジュースじゃ合わないよね」というのです。ネタ元はネットの書き込みのようですが、調べてみたところ、400ml血液由来の全血製剤で実際に薬価が18,000円に近いものがありました。ちなみに、血小板は10単位(200ml)で約8万円です。

▼献血は無償の行為ですから、献血者に謝礼金等は支払われません。「タダで集めた血液で儲けているのではないか」というのが若者の主張ですが、これは事実と異なります。実際には献血ルーム、献血バスなどの設備費用、職員や医師の人件費、器具などの材料費、検査、製剤、供給など多くの経費がかかっており、日赤の平成27年度の血液事業特別会計は、17億5,200万円の赤字となっています。

▼日赤の血液事業の赤字は、献血者の減少も影響していると思われます。平成27年度の献血者は全血・成分献血合計で488万人(前年度対比97.9%)となり、平成23年度対比で37万人も減少しています。献血者の減少は血液製剤供給による収益減に直結しますが、一方経費は固定費部分があり、日赤も削減努力をしていますが限界があります。

▼似たような状況(骨髄移植数の減少)が日本骨髄バンク(財団)にもあり、患者負担金値上げ問題が起きているのはご承知の通りです。財団と違って血液事業が赤字でも日赤がつぶれることはありませんが、それより問題なのは、このまま献血者の減少が続けば、必要量の輸血用血液製剤が確保できなくなるおそれがあることです。輸血ができなければ患者の命に直結します。

▼少子高齢化社会を迎えて、どうすれば献血者が増え

るのか。先の若者の会話に通じるものとして、かつて日本でも行われていた有償採血(売血)を限定的に復活させてはどうかという意見もあります。売血者の健康被害や感染症など患者への被害が多発したため、売血は全面的に禁止されましたが、謝礼金を抑え回数制限を設けて、厳格な検査をすればかつてのような弊害は起きないかもしれません。しかし、それはコストに跳ね返り、患者負担増につながります。また、無償の献血者が減るおそれもあります。

▼一方、骨髄バンクを通じた骨髄提供も無償の行為であり、骨髄バンクからドナーに支払われるのは交通費などの実費だけです。しかしドナーの肉体的・時間的・経済的負担は献血の比ではありません。会社を休めない、自営業で収入減に直結するなどの理由で提供を辞退するドナーも多くいます。全国の自治体で導入が進んでいる「ドナー支援制度」はその解決策となりうるものです。東京の会は都議会へ請願を行い都の助成制度が実現しましたが、事業主体は各区市町村のため、引き続き各自治体への働きかけを行っています。

▼5月に行われた全国骨髄バンク推進連絡協議会のボランティア大会で、厚生労働省の移植医療推進対策室長が、国によるドナー支援制度導入について「骨髄提供は無償が前提である」との理由で否定的な見解を示しました。しかし、ドナー支援制度は休業補償であり売血とは根本的に異なる性格のものです。ドナーに支給される助成金は1日あたり1万円程度であり、肉体的・時間的負担を考えれば、助成金を目的にドナーになることは考えられません。そもそも選ばれなければドナーにはなれないのですから、売血とは大きな違いがあります。また、休業補償が必要であれば助成金を申請しないドナーもいると思われます。

▼自治体による制度では、居住地によって助成金の有無や制度内容が異なり公平ではありません。国が制度化しても予算的には大きなものではありませんし、患者負担増にもなりません。厚生労働省には、既成概念にとらわれることなく、真に患者救済につながる改革を進めてもらいたいと思います。(S)

東京ドナー登録会予定(9月・10月)

9月10日(土) 尾久消防署(荒川区)	10月12日(水) 杉並区役所(杉並区)
9月11日(日) 松来未祐さん愛悼イベント(科学技術館/千代田区)	10月12日(水) 赤羽駅東口(北区)
9月17日(土) 有楽町献血ルーム(千代田区)	10月14日(金) 西新井駅西口(足立区)
	10月22日(土) 新宿東口献血ルーム(新宿区)

心のコもったご寄付ありがとうございました。(2016.6.16~8.15)

船奥保さん 10,000円/谷本清美さん 3,000円/櫻井洋子さん 3,000円/三瓶和義さん 7,000円
竹谷内紀子さん 7,000円/二見茂男さん 5,000円/甲斐彩子さん 1,000円/中谷哲郎・光子さん 10,000円
山崎祐一さん 3,000円/山本栄さん 1,000円/名川一史さん 2,000円/奥海祐子さん 5,000円
半田比呂美さん 5,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。